社会医療法人近森会

ひろっぱ 2

発行
2015年1月25日

Vol.355

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel. 088-822-5231 発行者●近森正幸 ／ 事務局●寺田文彦

新 近森オルソリハビリテーション病院

移転後の診療部門のご紹介（1・5階）

近森オルソリハビリテーション病院
院長　鄭　明守

移転後の近森オルソリハビリテーション病院では旧近森リハビリテーション病院と同様に1階を外来、5階をリハビリテーション室として運用することとしております。

1階の外来では入院患者さんの定期診察、および外来患者さんの両方に対応するため、外来3診＋処置室を設け、さらに小手術の可能な手術室を新設予定です。今後は小手術や局所麻酔で可能な抜釘術などの実施が可能となります。

5階リハビリテーション室に関しては理学療法、作業療法とも東病棟側で対応するようになり、西病棟側は引き続き旧設備を利用しての在宅復帰訓練等にて使用する予定ですが、それ以外にも患者さんとご家族との談話スペースや、現在当院1階で定期的に開催されているコンサート等での利用を予定しております。

てい　あきもり

新 近森オルソリハビリテーション病院
1、5階見取り図

● 医療今昔物語 ●　整形外科　9

変形性膝関節症の治療 ―その３ 脛骨顆部外反骨切り術―

近森病院整形外科
統括部長　衣笠 清人

脛骨顆部外反骨切り術（TCVO）は内反型変形性膝関節症に対する治療として 1990 年代に長崎大学グループが始めたユニークな手術法です。骨切り術としては高位脛骨骨切り術（HTO）が一般には普及していますが、残念ながらすっきりと痛みがとれないという事例がときにあります。

TCVO はこれに対する解決策として考え出された手術法で、当院でも約 5 年前から寺本司先生（福島県立医科大学外傷学講座教授・総合南東北病院外傷再建センター副センター長）のご指導を受け導入しています。

中等度の内反型変形性膝関節症が最も良い適応ですが、高度変形があっても年齢が若い方にはこの方法をお勧めしています。HTO は脛骨を横切りにして内反を外反に変えるだけの手術法ですが、TCVO は（逆）L 字型に関節内まで骨切りして外反位を得るだけでなく膝関節の不安定性を除去する方法です。技術的にはやや難しいのですが、慎重に施行すれば非常に良い結果の得られるすぐれた手術法です。

変形性膝関節症でお困りだけれども人工関節手術を受けることに抵抗のある方は当院整形外科の医師にご相談下さい。

きぬがさ　きよと

2月の歳時記

侘助（わびすけ）

近森病院臨床工学部
山崎 麻衣

侘助は椿の一種で、起源に定説はなく様々な俗説が語られていますが、そのなかの一つに千利休に仕えた庭師の名前が侘助という名であったとの説があります。

茶室に、控えめで趣のある椿を生けた庭師の侘助を利休が気に入り、彼の名前から、そう名付けたようです。そして現在でも茶道の茶室に飾られる、「茶花」の代表的な花として広く知られています。

やまさき　まい

絵・近森病院
附属看護学校事務局
公文幸子

PS 通信

中途入職者向け職員基本研修の事前指導

11 月 10 日、11 月 11 日に中途入職者向け職員基本研修の事前指導を行いました。あいさつや身だしなみを中心にした指導をさせてもらいましたが「あれ？髪の毛の色がちょっと明るくない？」「あいさつはハキハキと！にっこり笑顔も忘れずに！」などなど、PS サポーターからの愛のムチがビシビシと飛んでいました。身だしなみを正し、あいさつの練習をするにつれて、短い時間でも表情やしぐさに自信がついたことが分かるほどの変化を感じることができた研修となりました。

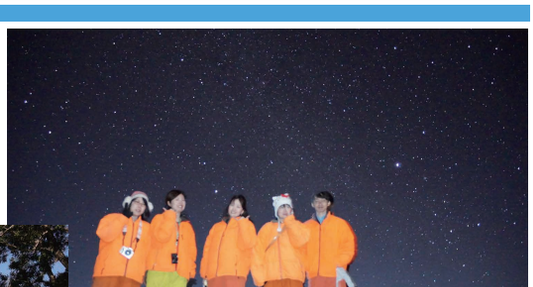
第一印象を決める身だしなみ、よりよい人間関係を築くためのあいさつ。

仕事の時に意識するだけではもったいない！ぜひ普段の生活にも取り入れてみてください。きっと身の回りの変化を実感できるはず！実践あるのみです！

（PS サポーター本山万記子）

職員旅行

ハワイに行ってきました！
朝から晩まで
ハワイ三昧～!!



看護部 キラリと光る看護 部署紹介 11 6階B病棟

～患者さんとご家族の目線で考え、行動できる看護師をめざして～

近森病院６B病棟
看護師長　小松 潤子

近森病院 6B 病棟は整形外科の病棟で、運動器（関節、骨、筋肉、腱、靭帯や神経）疾患や外傷の患者さんが多く入院されています。

整形外科の特徴として、疾患（障害）により、普段の生活に何らかの影響があるため、それらひとつひとつの問題を解決することができるような関わりが求められます。

とくに受傷直後や手術後は痛みに加え、さまざまな不安が強い状態であるため、入院時から受け持ち看護師が中心となり、少しでも早く患者さんの症状を取り除くことができるよう、患者さんひとりひとりのニーズにあわせた看護ケアの提供につとめています。

また、入院生活を送る上で日常生活動作（ADL）の援助が必要な方がほとんどであるため、常に患者さんとご家族の目線で考えることを忘れず、理学療法士、管理栄養士、薬剤師など他職種と連携を密に図りながら、患者さんが安心して入院生活が送れるよう取り組んでいます。

そして当院での治療が終了した後は、患者さん、ご家族のご意向を伺いながら、退院または次の施設への転院調整を行い、1 日も早く元の生活に戻っていただけるよう支援させていただいています。　こまつ　じゅんこ

ハッスル研修医

高知が大好き

初期研修医　前田 真佐

私は高知で生まれ、高知で育ちました。就職先を決める時に、県外に出ず高知で就職したのは、やはり高知が大好きで、生まれ育ったこの高知に恩返しをしたいと思ったからです。近森病院は高知の医療の中心であり、ここで研修をすればきっと充実した研修医生活を送れるだろうと思い、研修病院として選ばせていただきました。

近森病院では研修医が患者さんをファーストタッチで診療にあたれ、またやる気さえあれば何でもやらせていただける体制があり、とても勉強になっています。日々熱心に教えて下さる先生方や優秀なコメディカルの方々のおかげで、毎日充実した研修医生活を送っています。

慣れないことや勉強不足なこともたくさんあり、先生方やスタッフの方々にはご迷惑をかけることも多いとは思いますが、今後とも温かい目で見守っていただきますよう、今後ともよろしくお願いします。

まえだ　まさ

忘れてはならないもの

近 森　正 幸

時代が違うとはいえ付添看護の野戦病院のような病院から、地域医療支援病院、救命救急センターとなり、この 5 カ年計画でハードを一新、ヘリポートを有する高度急性期病院となった。この 30 年間、私たちだけで作り上げてきたようなうぬぼれがあった。

昨年 12 月、岡山駅から車で 20 分の郊外の病院に講演に呼んでいただいた。玄関に入っただけでもいい病院だなあと思えた。院長先生は人を活かすという経営方針で、病院内には絵画やアクアリウム、コンサートホールなど、癒しのスペースが多く、スタッフや患者さんの満足度の高さを感じさせた。この病院は私が父の後を継いだ年に 40 床の病院としてスタートし、現在は 202 床の脳、神経、運動器疾患の先進的な専門病院となっている。その病院を見学させていただいてハッと気づかされた。

1946 年の戦後まもなく高知駅前のこれ以上ない立地を得て近森外科を開設してくれたことで、いまの近森がある。父は診療、母が給食を担当し、軍医時代の衛生兵だった寺尾事務長の三人でスタートした。40 年近く目先の利益を追わず、患者さんにとって最もいい医療を目指し、「救急の近森」という確たる信頼を作り上げてくれた。岡山の病院がゼロから始めた時、私たちには、すでに 584 床のベットと 442 名のスタッフ、多くの建物や設備機器など、40 年かけて残してくれたものがあった。この違いの大きさに気づかされ、つくづく先人の努力を忘れてはならないと思う。

現在 798 床、2,200 名のスタッフで、近森がいまフル稼働し始めている。今もなお、たいへんだけれど、患者さんにとっていい医療、そしてスタッフが笑顔でいきいきと働ける病院を目指している。

理事長・ちかもり　まさゆき

ザ・RINSHO 32 医療福祉部 2

ソーシャルワーカーの目線

近森病院医療福祉部
室長　林　恵

体調不良を訴えて受診した患者さんは重症で「治療」が必要な状況でした。しかし患者さんは無保険です。病気と治療費の不安がのしかかり、「治療」に専念することもできません。早急な対応が求められます。

こんな場面でソーシャルワーカーは患者さんと向き合います。そしてこれまでの生活を教えてもらいます。その日暮らしで経済的に厳しい、保険料がもったいないなど、10人に出会えば10人の事情に出会います。そこから治療継続できるよう患者さんと考えていきます。

ソーシャルワーカーは「手段を提案する人」ではなく、「手段を一緒に考える人」です。限られた時間のなかで、治療の必要性や治療費について伝え、保険の加入・高額療養費制度など提案し、本人、家族の意見に耳を傾け、本人、家族が選択していく過程に付き合います。

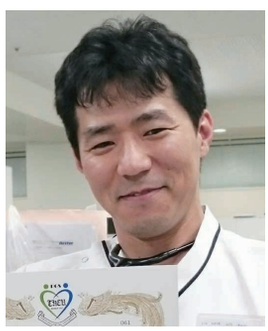
その結果、保険証が取得できた、生活保護が決定した等、治療に専念できる環境が整ったとき、私たちも「元気になれる環境が整った」と、うれしい気持ちになります。

はやし　めぐみ

診療看護師のお仕事リポート　その1

特定行為に関する看護師の研修制度始まる！

近森病院 診療看護師　青柳智和



2015年10月に「特定行為研修制度」が始まり、修了証が届きました。国家資格ではありませんが、厚生労働省の指定機関で10万人以上が養成される見込みです。つまり、今後、近森会のほぼすべての看護師が「特定看護師」を目指すこととなるでしょう。

特定看護師は、薬剤投与や末梢留置型中心静脈カテーテル（PICC）の挿入などを「医師の作成した手順書に基づいて」行いますが、この制度の本質は看護師の質の向上であり、臨床推論やフィジカルアセスメント等、基礎となる共通科目の学習は315時間にのぼります。

看護師業務は「療養上の世話及び診療の補助」に分けられますが、超高齢化社会の到来と医療の高度化に伴い、卒後研修の必要性を国が感じたといえるでしょう。職員対象の説明会を2月から始めますので、ぜひお越しください。

次回は、具体的に近森病院でどのように活動していくかを紹介します。

あおやぎ　ともかず

リレー　エッセイ

餅つき

診療支援部システム管理室
松村　稔

昨年も、年末の恒例行事の餅つきが幼稚園でありました。子供たち3人とも同じ幼稚園に通っていましたので、もう7回目になります。

炊きたてのもち米を臼にいれて、杵で少しこねてからつき始める。杵は頻繁に水につけて水気を帯びてないとエライことになります。合いの手の人に調子よく裏返してもらい、「よいしょ、よいしょ」と掛け声を上げてもち米をついていきます。

この一連の流れなのですが、やり始めた当時の要領の悪かったことを思い出します。臼に水気がないままだったため、お餅が臼からとれないことも。もち米を臼に入れて

すぐつき始めるもんだから、米がまだくっついてないので、もち米がピチピチ外に飛び出す始末。

臼のフチをたたき、杵の先が欠けボロボロになり、木クズがお餅に入ってしまい、クレームになったり。餅らしくなってきたのに、水気がなくなった杵にくっついてしまい、そのままお餅は砂の地面へ。あぁ～あ。

餅つきに時間が掛かり、幼稚園終了の迎えの園バスがきても、目もくれずひたすら餅をつき続けていたり。今までいろいろあったなぁと思い出しました。今回はあまり出張らず、極力他のお父さんにお願いをするようにしました。

今年は時間内にお餅つきも終わることができて、良かったと思います。いちばん下の子も幼稚園最後の年長なので、今年が最後となるのは少し寂しいのですが、次のお父さんたちにがんばってもらいたいと思います。

まつむら　みのる

脳梗塞に対する tPA 静注療法と 血管内治療のスピード・アップ

脳卒中センター　脳神経外科　科長　西本 陽央

2005 年開始　現在 150 例を超える

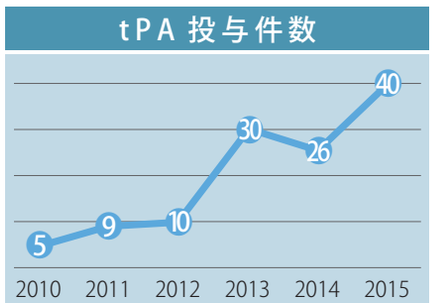
急性期脳梗塞に対する tPA(アルテプラーゼ) 静注療法は最も重要な治療法です。当院では 2005 年からこの治療を行っており、現在 150 例に達しています。2012 年 4 月からは SCU(脳卒中専門病棟) が稼働を開始し tPA 静注療法の施行件数は増加しています。脳外科と神経内科が脳卒中センターを組織し協力して治療を行っており、24 時間院内に常駐しているためいつでも tPA 静注療法が可能です。脳血管内治療（カテーテルによる再開通療法）も積極的に行っています。

時間との戦い

脳卒中は時間との戦いです。ガイドラインでは来院後 1 時間以内に tPA を投与することが推奨されています。そのためにたくさんのスタッフの協力が必要で高度なチーム医療が要求されます。私たちは少しでも早く安全にこの治療ができるように工夫しており、現在は次のような流れで行っています。

来院から投与まで 1 時間以内

脳梗塞が疑われる患者が来院すると ER の医師と連絡を受けた神経内科医か脳外科医が診療を開始します。頭部 CT を撮影し、血液検査などのチェック項目をすべてクリアすると（厳格な基準があります）その場で tPA 静注療法（アルテプラーゼという薬の点滴）を開始します。MRI を撮影し、太い血管がつまっている場合にはカテーテル治療に移ります。現在はほとんどの症例で「来院から投与まで 1 時間以内」という目標は到達できています。



最短 13 分

2015 年、来院してから tPA 静注開始までが最も早かった症例では 13 分で投与ができました。嬉しいことにこの患者さんは全く障害を残さずに退院されました。（この時のチームに脳卒中センターから敬意と感謝を込めて表彰を行いました）

ひとりの人生を取り戻すことのできるこの治療法をさらに早く、安全に行えるように脳卒中センターは努力を続けます。　　にしもと　よう

日本脳卒中学会医療向上・
社会保険委員会が提案するアルテプラーゼ静注療法の施設基準

1. CT または MRI 検査が 24 時間実施可能であること
2. 集中治療のため、十分な人員（日本脳卒中学会専門医などの急性期脳卒中に対する十分な知識と経験を持つ医師を中心とする診療チーム）及び設備［ストロークケアユニット(SCU)またはそれに準ずる設備］を有すること
3. 脳神経外科的処置が迅速に行える体制が整備されていること　（病院間で適切な契約または約束が出来ている条件のもとであれば、必ずしも院内で処置が行えなくとも良い）
4. 実施担当医が日本脳卒中学会の承認する本薬使用のための講習会を受講し、その証明を取得すること　（ただし、発症 24 時間以内の急性期脳梗塞をたとえば年間 50 例程度の多数例を診療している施設の実施担当医については、本薬使用前の講習会の受講を必須とはしないが、できるだけ早期に受講することが望ましい）

▲出典：日本脳卒中学会 HP／rt-PA（アルテプラーゼ）静注療法 適正治療指針第二版

治療経過

履歴書を試験日の 1 週間前までに近森病院管理棟看護部長室まで、郵送またはご持参ください。

ベスト tPA チームの表彰 !!

▲向かって左から、放射線科の三本将司、ER の町田清史、SCU の武内麻衣、SCU の猪股綾香のみなさん

◆第150回地域医療講演会◆　2015年12月18日

▼国立循環器病研究センター心臓血管内科部門長　安田聡先生

循環器医療は どこに向かうのか？

近森病院循環器内科
主任部長　川井　和哉

国立循環器病研究センター心臓血管内科部門長の安田聡先生に「循環器疾患に対する先端医療と先制医療」の演題でご講演いただきました。

日本循環器学会の診療実態調査では、心不全入院や不整脈のカテーテル治療、弁膜症手術が増加しているようです。とくにTAVI（大動脈弁狭窄症のカテーテル治療）の増加は著しく、今後は体の負担が少ない治療へと進んで行くでしょう。

国立循環器病研究センターでは、すでに僧帽弁閉鎖不全に対するカテーテル治療（MitraClip）の治験を開始しており、最新の治療を紹介していただきました。また、CTとMRI検査を組み合わせ、心筋梗塞を発症前に高い精度で予測し、治療して発症を予防するという先制医療についても、先生の研究を元に熱くご講演いただきました。

循環器医療の素晴らしい未来を予感させる楽しい講演でした。

かわい　かずや

リウマチ診療ワークショップ（リウマチームワークショップ in 高知）　2015年12月12日

近森病院のチーム医療の素晴らしさを 改めて実感する一日でした

近森病院外来センター
登録リウマチケア看護師
岡林　友季子

▼前列向かって左から5人目が筆者

12月12日、近森病院と高知赤十字病院が参加して、全国で4番目に開催されました。当院からリウマチ医師2名、リウマチケア看護師2名、ソーシャルワーカー2名、管理栄養士1名、理学療法士1名、歯科衛生士1名が参加しました。

同一の課題症例（抗リウマチ薬で治療中の難治リウマチ例）に対し、治療方針を共有しながら各専門職種の立場から患者さんとそのご家族にどう治療サポートできるか、意見が出されました。

最後にディスカッション内容を各病院から発表して検討会を終えました。ワークショップに参加し、チーム医療とは、一人の患者さんに対し医療専門職が連携して、治療やケアに当たることであることを再認識し、改めて近森病院のチーム医療の素晴らしさを実感した一日でした。

おかばやし　ゆきこ

ワイン講座 ● 38

ぶどう品種を知り、個性を探る 黒ぶどう その16

イタリア篇　バルベーラ

ランゲ・ロッソ・ラリージ／エリオ・アルターレ／イタリア、ピエモンテ州●最高峰のバルベーラとして高い生産者。アルボリーナ畑の古木のぶどうを使用。ヴェルヴェットのような舌触りとはまさにこのワインのことではないでしょうか。

イタリア北西部、フランスとの国境に位置するピエモンテ州を原産とする土着品種。現在ではアメリカを始めとして国外でも多く栽培されています。

バルベーラ種はピエモンテのぶどう作付面積の4割程度で、生産量においては、バローロより多く、半分以上で量的に重要な位置を占めていることがわかります。

バルベーラは、チェリー、プラムなどの果実、スミレなどのフラワリーな個性を持ち、優しく、親しみやすく、また、タンニン（渋み）が少なく、誰にでも素直に受け入れられる風味を持っています。

以前は庶民的な安価な代表だったバルベーラに転機が訪れたのは1980年代、いわゆる近代的なスタイルのバルベーラが次々と誕生し、濃厚な果実味、樽熟成させてリッチな風味に仕上げられたものが人気を得ました。

今や高品質＝高価なバルベーラにはバローロ、バルバレスコと並ぶ価格のものも珍しくなく、国際的にも高く評価されたこともあり有名なワインとなりました。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）

出張報告

2015年11月4～7日

ILLRS Congress MIAMI 2015に参加して

近森病院整形外科
部長　西井 幸信

マイアミ（アメリカ　フロリダ州）で開催されたInternational Limb Lengthening and Recosntruction Surgeryの国際学会に演者として参加させていただきました。

主催者はDror Paley先生でアメリカにおける骨延長術および関節機能再建術の第一人者です。招待講演では画期的なIlizarov（イリザロフ）創外固定を考案したロシア（旧ソ連）のIlizarov教授の娘であるSvetlana Ilizarov先生が、その歴史について講演されました。日本からは福島県立医科大学外傷学講座の松下隆教授、寺本司教授のグループ、金沢大学付属病院整形外科土屋弘行教授のグループなどが参加して発表を行いました。

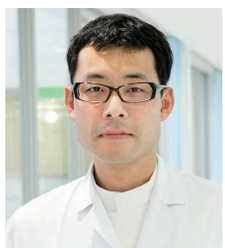
今回は足関節における骨切り術について発表を行いましたが、膝および足関節における関節内骨切り術は共同演者の寺本司先生が考案したものであり、現在、海外でも非常に注目されています。

主催者のDror Paley先生も注目しており、会長講演で今後発展させるべき手術の一つに挙げていました。英語は苦手で国際学会での発表は初めてでしたが、海外の著名な先生方と交流を持ち、ディスカションできる貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

にしい　ゆきのぶ

2015年11月18日～20日

International Therapy and Technology Exchange Physician Program に参加して



近森病院循環器内科
科長　古谷 敏昭

オーストラリアのシドニーで開催されたプログラムに参加しました。アジアパシフィック地域各国より心臓カテーテル治療に従事する医師が参加し、今回が第10回とのことでした。オーストラリア、中国、インド、インドネシア、フィリピン、韓国、ベトナムなどから総勢80人程度（日本からは11名）が参加しました。PCI（経皮的冠動脈形成術）、TAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）、腎デナベーション（高血圧治療の一つである腎交感神経除神経術）などについて、国際的に有名な医師を講師として最新のデータやエビデンスを交えてのレクチャーや、各国から提示された症例をもとにパネルディスカッションなどあり、最新の知見を広めつつ各国間での治療の違いなどを学ぶことができました。

その他、小グループに分かれてのハンズオンや討論もあり盛りだくさんでした。2泊5日の強行スケジュールで、プログラムは3日間ともぎっしりつまった内容となっており体力的に（というよりも精神的に？）きつかったですが、たいへん勉強になりました。

せっかくのオーストラリアということで観光に出かけているのか、長時間席を外している医師がいるなかで（私の隣席のフィリピンの医師は初日の2時間ぐらいしかいませんでしたし、団体で会場からいなくなってしまう国もいたようです）、お国柄かもしれませんが3日間とも誰一人抜けることなく、真面目に参加していたのは日本人だけだった（？）かもしれません。

こたに　としあき

お弁当拝見　40　自作の曲げわっぱに

近森病院8A病棟
歯科衛生士　矢野 菜々

中学時代から社会人2年目までは母が毎日お弁当を作ってくれていました。しかしこのままではいけないなと感じ、数年前からほぼ毎日自分でつくっています。学生時代は母がお弁当を作ってくれることをどこか当たり前のように感じていましたが、毎日早起きをしてつくるのは想像以上に大変で、今ではとても感謝しています。

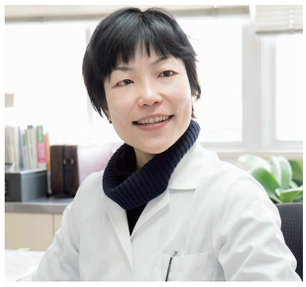
自分で作った曲げわっぱのお弁当箱に、入れるものを毎朝悩み楽しみながら、これからも作っていきたいです。

やの　なな

クリニック探訪

はるの森澤クリニック 内科／皮膚科

高知市春野町東諸木3163 〒781-0315 電話 088-841-0188



▲はるの森澤クリニックの建物。右側は「デイサービス太陽」

院長 森澤 有希

地域の小児からお年寄りまで、内科と皮膚科を中心に診療をしています。院内でエコー・内視鏡等の消化器専門外来も行っています。それ以外の専門的な治療が必要な際には、近森病院と連携し、患者様にとってベストの 医療を提供できるよう、心がけています。医療と介護のシームレスな連携を重視し、デイサービス・認知症対応型グループホームを同一敷地内に建立しており、利用者に安心と笑顔を提供出 来るよう努めております。

診療時間	月	火	水	木	金	土
8：30～12：00	○	○	○	○	○	○
13：00～16：30	○	○	○	○	○	—

休診は土曜午後、日曜、祝日

人の動き 敬称略

2015年12月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	18,754 人
新入院患者数	882 人
退院患者数	964 人
近森病院（急性期）	
平均在院日数	15.86 日
地域医療支援病院紹介率	63.30 %
地域医療支援病院逆紹介率	143.94 %
救急車搬入件数	582 件
うち入院件数	269 件
手術件数	485 件
うち手術室実施	316 件
うち全身麻酔件数	187 件

2015 年 12 月 県外出張件数
件数 43 件 延べ人数 86 人

編集室通信

大掃除が終わりません。処分済が衣類45ℓ×3袋、雑品×3袋、本×219冊、ゴミ×3袋。処分予定はCDコンポ、ソファ、PCが各1、棚×2、自堕落な性根、他。「物と収納が無ければ散らからない」を心に刻み続ける今日この頃です。（須）

図書室便り（2015年12月受入分）

- ICU ブック第 4 版／ PaulL.Marino（著）、稲田英一（監訳）
- 今日読んで明日からできる診断推論／野口善令（編著）
- 戦略としての医療面接術こうすればコミュニケーション能力は確実に向上する／児玉知之
- 非器質性・心因性疾患を身体診察で診断するためのエビデンス／上田剛士（編著）
- プロブレム別診療マネジメントチャート 50 天理よろづのレジデントはここまでやる！／天理よろづ相談所病院レジデント
- 救急外来：ただいま診断中！／坂本壮
- 卒後 10 年目総合内科医の診断術／石井義洋
- 新・総合診療医学 Case ＆ Review ／小嶋一（他編）
- 細胞診ガイドライン 5 消化器 2015 年版／日本臨床細胞学会（編）
- 細胞診ガイドライン 3　甲状腺・内分泌・神経系 2015 年版／日本臨床細胞学会（編）
- 甲状腺癌取扱い規約第 7 版／日本甲状腺外科学会（編）
- 褥瘡ガイドブック第 2 版／日本褥瘡学会 (編)
- 外保連試案 2016 手術・処置・生体検査・麻酔試案／外科系学会社会保険委員会連合 (編)
- 三訂精神保健福祉法の最新知識歴史と臨床実務／高柳功（他編著）

《別冊・増刊号》

- 別冊医学のあゆみ臨床プロテオミクス／近藤格（編）
- 別冊 NHK きょうの健康 C 型肝炎・B 型肝炎・脂肪肝・肝硬変・肝がん　治療が大きく変わった！／泉並木（総監）

人物ルポ 306 ●近森病院附属看護学校 副学校長／尾原喜美子さん

「伴走者」の喜びと倖せ

看護学教育に携わった 15 年のその先に

高知医科大学（当時）に1998 年、創設された医学部看護学科に、創設翌年から関わり、「看護学教育」に携わって丸 15 年、基礎看護学教育に携わってからはすでに 30 年以上が過ぎた。定年退職を迎えた春、梶原和歌理事とのつながりによる絶好のタイミングで、「近森病院附属看護学校」の開校に向けて看護学校設立準備事務局に着任。そして、昨春の開校以来は実践教育の司令塔として、あるいは「学生をナマで教えてこその醍醐味」を現場教員として味わいつつ、開校二年目の春を穏やかな気持ちで迎える年初である。

新しいハーモニーを紡ぐ出会い

振り返れば、人生の大きな節目は、人との出会いが常に新しいハーモニーを紡いでくれたという実感に、しみじみ感慨を覚えている。

「人との出会い」は、組織に属していればとくに、誰にでもいくらでもありそうだが、そのタイミングを逃さず、しかも数ある出会いのなかの、なにに重きを持たせるかで、その後のコースは大きく変わるのだろう。

そういう意味では尾原先生が、学校教育を受けた最初に、「こんな人生もありかも」と導かれた出会いは、たいへん大きかったといえるのだろう。その半世紀を、小さな「人物ルポ」の枠で振り返るには紙数が足りないが、それでも敢えて「最初の出会い」と呼べるものを振り返れば、少なくとも看護教育に携わるきっかけは、看護学校の先生から「看護学校の先生をやらないか」と勧められたことだった。しかも、一度は「長男が生まれたばかりだから、とお断わりしたのに、半年後に再び、お誘いいただけた」のだった。

一度ならず二度まで声をかけられたとき、「もう三度目はない」と、夫にも実家の母親にも背中を押され、「その気になった」のがきっかけだった。先生をするためには最低半年間の研修が要ったが、子どもは実家の母上と夫にみてもらいながら、きっと本気で必死で勉強された、のだろう。

ただし、どうやら尾原先生はヒタイに青筋たてて、とか、必死で脇目も振らず、などという勉強態勢を、少なくとも、いま学んでいる学生に望んでいる、という姿勢ではないようだ。

人として教育者として

美しい花を美しいと眺め、夜空の星にも癒しの音楽にも感動できるほどの余裕を持ちながらの学びが基本にあるようだ。

教育は、こと、看護教育に限っていえば、短期決戦ですぐ答えが出せるものではなく、あくまで五年先、十年先にどんな看護師が育つかが目標になる。むろん、国家試験パスという最低限の知識は必要だが、プラスアルファーをどう「伝える」かが、結局は教育者としての永遠の命題ともいえるのだろう。

求められる「技術」

とはいえ、看護場面に「技術」が求められる部分があるのと同様に、教え方あるいは学び方にも「技術」は求められる。それが例えば「TBL学習」と呼ばれるもので、グループ学習を通して、大きく言えば、「どう主体的に学ぶか」を各自が、主体的に考える方法を知る学習法といえるだろうか。

看護教育に限ったことではないが、「人を育てることは国をつくることと一緒」という信念に基づいて、学生一人一人の「良さ」をどう評価するか、それがひいてはどう患者さんやご家族に反映されるのか。時代の要請に応じた教育のあるべき姿を求め続ける毎日には、これで卒業といった節目がないとも言えるし、節目を敢えて創り、そこに納得や妥協点を見いだす日々が目先の目標ともいえるのだろう。

▼「いまここで撮ってください！」と、テキパキ！（本当は外へ行ってほしかったが…）

明日への希望と日々の現実

こころ豊かな日々や、周りへの細やかな配慮など、言葉にすればどこか薄っぺらいが、そんな人間像を胸に、穏やかで、刺激的で、将来にワクワク希望を託せる「伴走者」の毎日が過ぎていく。

第77回日本臨床外科学会総会研修医セッションで受賞

急性虫垂炎の医療コスト ~保存か手術か~

初期研修医２年次　福島 大

第77回臨床外科学会で研修医優秀賞をいただきました。

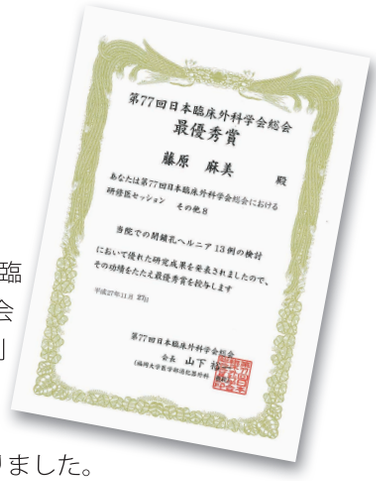
今回は２年連続の臨床外科学会であり、今年は研修医優秀賞も各セッション１名ずつということで入賞を狙っての発表でした。

内容はさておき、質疑応答に関しては北村副院長、辻井科長に発表後にダメ出しをされましたが、めでたく（？）賞をいただけました。お世話になった近森病院に少しでも恩返しができたのではと思います。副院長はじめ、総勢10名で参加した学会は、博多の夜も満喫でき有意義な時間でした。

ふくしま　だい

当院での閉鎖孔ヘルニア 13例の検討

初期研修医２年次　藤原 麻美



今回の臨床外科学会は、北村副院長の引率のもと、研修医、コメディカル総勢８題の発表をして参りました。

研修医セッションでは336題のなかから福島君と最優秀演題に選ばれ、2015年度の腹部救急学会に続き２度目の全国学会受賞をいただきました。いつも私たち研修医に熱いご指導をしてくださる辻井科長を始め、外科の先生方には感謝してもしきれません。

前回より成長できた反面、反省点もあり、次へ繋がる貴重な経験となりました。ありがとうございました。

ふじわら　あさみ

近森看護学校通信 9

臨地実習

川添　悦子

▲オルソリハ病院で実習開始の挨拶　▼カンファレンス中。臨床指導者さんも参加くださいました

検温の見学

近森病院附属看護学校１期生が、セレモニーでの誓いを胸に初めての臨地実習に臨みました。学生はもちろん引率教員も、不安と緊張の日々の連続でした。

バイタルサインの測定では、緊張のあまり学生の手は震え、患者さんと初めてお話をするのにも勇気がいりました。しかし、患者さんの「頑張りなさいよ」「ありがとう」の言葉が学生の励みとなり、座学では学べない貴重な経験ができ、その経験を振り返ることの重要性と、新たな課題に気付くことができた実習となりました。お忙しい業務のなか、学生たちを見守りご指導をいただいた皆さんに、教職員一同感謝しています。ありがとうございました。

かわぞえ　えつこ

乞！熱烈応援

今、何ができるのか

近森病院理学療法科
主任　江口 裕子

就職して11年目となり、さらに育児休暇を明けバタバタしているなか、周りのスタッフに支えられ続けることが出来ました。自分としては、皆と一緒に悩み、一緒に考えることができ、いつでも相談しやすい先輩をモットーにしたいと思います。

まだまだ修行の身ですが、チーム皆で「患者さんのために今、何ができるのか」を常に考えながら頑張りたいと思います。

えぐち　ゆうこ